98.2.26. 朝日新聞(夕)

高校中退率最高の2.5%

1996年度 11万人超す 3年連続で増加

全国の公私立高校を一九九六年度中に中退した生徒は十一万千九百八十九人と三年連続で増えたことが二十六日、文部省の調査で分かった。前年度と比べ一四%も増え、在籍者数に対する中退率は二・五%（前年度比〇・四ポイント増）にのぼり、調査を始めた八二年度以来、過去最高を記録した。文部省は「中学での進路指導や高校入学後の配慮をもっと充実させる必要がある。場合によっては、中退による進路変更を積極的に評価・支援することも進めるべきだ」としている。

通信制を除く全日制、定時制の公私立高校のすべてを対象に調べた。

中退者の公私立別内訳は、公立が前年度を約九千人上回る七万三千五百七十五人（中退率二・三%）、私立が約五千人増の三万八千四百十四人（同二・八%）。

学校側が分類した中退理由の傾向は例年と変わらず、就職や別の高校への進学、専門学校への入学を希望する「進路変更」が四二・七%と最も高かった。学校生活や授業に興味がわかずに通学意欲をなくす「学校生活・学業不適応」が三一・四%。授業が理解できなかった「学業不振」は八二年度の一九・一%から年々減って九六年度は七%。校内暴力などの「問題行動」は四・八%だった。

「学校生活・学業不適応」の内容を初めて細かく分類したところ、全体に占める比率で、▽「もともと高校生活に熱意がない」が二二・五%▽「授業に興味がわかない」が六・五%▽「人間関係がうまく保てない」が四%の順だった。

教育方法変えねば

兵庫県立のフリースクールで学園長を務める小林剛・武庫川女子大教授（臨床教育学）の話　中退者が急増している背景には、不登校の深刻さがある。一つの教室に集めて、教師がとうとうと話す講義形式の授業が中心だ。高校改革が進んだと言っても、彼らの心に届くところまで学校は変わっていない。もっと高校が大胆に教育方法を変えるのと、平均的な高校生には難しすぎる学習指導要領を改定することが急務だ。

AA19980009J1